

平成13年度 文学部 授業計画表 [syllabus]

地4必

<p>科目名 地理学演習Ⅱ (英文名) Seminar on Geography II</p>	2単位 (ふりがな) 担当者 長谷川	はせがわ ひとし 均																							
<p>授業のねらいと概要:</p> <p>優秀な卒論を作成し、プレゼンと討論の技術を身につけることがゼミの目的である。</p> <p>発表と討論が中心となるから、重病や忌引以外の欠席は認めない。</p>																									
<p>教科書と参考図書:</p>																									
<p>評価法 : 発表内容、質疑応答の内容、出席点で評価する。毎回少なくとも1回は、各自がまとめて得た質問をしなければならない。</p> <p>この講義の評価が、卒論の評点ではないことに注意すること。</p>																									
<p>【授業計画】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 80%;">授業内容とそれに必要な準備</th> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 80%;">授業内容とそれに必要な準備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各自の進捗状況にあるので、それに応じて内容を組み立てる。 2回目のゼミまでに、卒論の内容を細かく書いた計画書と、これまでに読み込んだ論文の一覧を作成しておく。</td><td></td> <td></td><td></td></tr> <tr> <td>4~5月の予定 -受講生からの聞き取り。卒論の内容などに関してより具体的な話に入る。 -読むべき論文の紹介と、どの様に論文を読むのかを解説する。 -調査の計画、方法などについて解説する。 -研究史の作成。 -論文の書き方について指導し、完成までのフローチャート作り -2回目に紹介された論文の他に、自分で読み終えた論文を踏まえ、どのような問題意識で、どのような調査をするかを発表する(一人30分、一講義二人)。 -長谷川が過去に作成した、あるいは現在取りまとめ中の論文を示し、まとめかたを解説する</td><td></td> <td></td></tr> <tr> <td>6~7月の予定 -夏の調査で、調査地域のどこで何を調べるのか計画を立て、その調査の成果としてどの様な図、表ができるかのラフ・スケッチを示してもらう。(一人30分、1講義につき2発表者をあてる</td><td></td> <td></td></tr> <tr> <td>9月以降の予定 -下記の様式に沿って、レジメをつくりながらまとめ発表する。 ※ 発表要旨の様式 1 題名 2 研究史(あるいは、研究抄史) 3 地域の設定理由 4 類似のテーマで行った研究例があるなら、自分の研究テーマあるいは対象地域との比較について 5 研究や作業の方法について 6 現在までに行った室内作業と野外調査について 7 現在までに収集した参考文献表 8 既に論文の目次を作成してある場合は、それについても提示する。 9 どの様な図を作成したか、あるいは作成する予定であるか</td><td></td> <td></td></tr> <tr> <td>※注意 以上の項目について、レジメを作成し出席者に配布する。レジメは極力ワープロを使用して作成し、位置図なども必要に応じて載せること。また、発表当日は該当地域の地形図や野外調査で撮影した写真、作成した図などを持参し、他の受講生が研究地域を理解しやすいように努めること。レジメには題名、発表者氏名、発表日などを明記する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業内容とそれに必要な準備	回数	授業内容とそれに必要な準備	各自の進捗状況にあるので、それに応じて内容を組み立てる。 2回目のゼミまでに、卒論の内容を細かく書いた計画書と、これまでに読み込んだ論文の一覧を作成しておく。				4~5月の予定 -受講生からの聞き取り。卒論の内容などに関してより具体的な話に入る。 -読むべき論文の紹介と、どの様に論文を読むのかを解説する。 -調査の計画、方法などについて解説する。 -研究史の作成。 -論文の書き方について指導し、完成までのフローチャート作り -2回目に紹介された論文の他に、自分で読み終えた論文を踏まえ、どのような問題意識で、どのような調査をするかを発表する(一人30分、一講義二人)。 -長谷川が過去に作成した、あるいは現在取りまとめ中の論文を示し、まとめかたを解説する			6~7月の予定 -夏の調査で、調査地域のどこで何を調べるのか計画を立て、その調査の成果としてどの様な図、表ができるかのラフ・スケッチを示してもらう。(一人30分、1講義につき2発表者をあてる			9月以降の予定 -下記の様式に沿って、レジメをつくりながらまとめ発表する。 ※ 発表要旨の様式 1 題名 2 研究史(あるいは、研究抄史) 3 地域の設定理由 4 類似のテーマで行った研究例があるなら、自分の研究テーマあるいは対象地域との比較について 5 研究や作業の方法について 6 現在までに行った室内作業と野外調査について 7 現在までに収集した参考文献表 8 既に論文の目次を作成してある場合は、それについても提示する。 9 どの様な図を作成したか、あるいは作成する予定であるか			※注意 以上の項目について、レジメを作成し出席者に配布する。レジメは極力ワープロを使用して作成し、位置図なども必要に応じて載せること。また、発表当日は該当地域の地形図や野外調査で撮影した写真、作成した図などを持参し、他の受講生が研究地域を理解しやすいように努めること。レジメには題名、発表者氏名、発表日などを明記する。					
回数	授業内容とそれに必要な準備	回数	授業内容とそれに必要な準備																						
各自の進捗状況にあるので、それに応じて内容を組み立てる。 2回目のゼミまでに、卒論の内容を細かく書いた計画書と、これまでに読み込んだ論文の一覧を作成しておく。																									
4~5月の予定 -受講生からの聞き取り。卒論の内容などに関してより具体的な話に入る。 -読むべき論文の紹介と、どの様に論文を読むのかを解説する。 -調査の計画、方法などについて解説する。 -研究史の作成。 -論文の書き方について指導し、完成までのフローチャート作り -2回目に紹介された論文の他に、自分で読み終えた論文を踏まえ、どのような問題意識で、どのような調査をするかを発表する(一人30分、一講義二人)。 -長谷川が過去に作成した、あるいは現在取りまとめ中の論文を示し、まとめかたを解説する																									
6~7月の予定 -夏の調査で、調査地域のどこで何を調べるのか計画を立て、その調査の成果としてどの様な図、表ができるかのラフ・スケッチを示してもらう。(一人30分、1講義につき2発表者をあてる																									
9月以降の予定 -下記の様式に沿って、レジメをつくりながらまとめ発表する。 ※ 発表要旨の様式 1 題名 2 研究史(あるいは、研究抄史) 3 地域の設定理由 4 類似のテーマで行った研究例があるなら、自分の研究テーマあるいは対象地域との比較について 5 研究や作業の方法について 6 現在までに行った室内作業と野外調査について 7 現在までに収集した参考文献表 8 既に論文の目次を作成してある場合は、それについても提示する。 9 どの様な図を作成したか、あるいは作成する予定であるか																									
※注意 以上の項目について、レジメを作成し出席者に配布する。レジメは極力ワープロを使用して作成し、位置図なども必要に応じて載せること。また、発表当日は該当地域の地形図や野外調査で撮影した写真、作成した図などを持参し、他の受講生が研究地域を理解しやすいように努めること。レジメには題名、発表者氏名、発表日などを明記する。																									